

令和7年度 福生市校長会

I 活動方針・重点事項等

- 「すべてはふっさっ子の未来のために」
- 学力向上・規範意識の醸成・基本的な生活習慣の定着
- 幼保小連携・小中一貫教育の推進



II 活動・取組

1 経営研修

学校経営を担う人材育成を目指し、年間を通して実施

- (1) 開校式 令和7年5月14日(水) 講話 福生市教育委員会教育長
対象：副校長、教育管理職選考受験者、四級職選考受験者、任用審査対象者 計14名
- (2) 論文指導 市内の校長2名が担当して実施 (経営研修担当が担当の割り振りを計画)
- (3) 面接指導 受験者につき2回実施 受験時期に合わせて設定 (7月～10月)
- (4) 閉校式 令和8年2月 講話 福生市教育委員 指導課長

2 コミュニティ・スクールとしての充実

令和2年度で市内すべての学校がコミュニティ・スクールとなった。コミュニティ・スクールとしての取組の充実が求められており、校長会としても重点としている。5月には、コミュニティ・スクール総会を実施し、市内小・中学校10校のコミュニティ・スクール委員が集まり、代表校の報告やテーマにそって協議を行っている。今年度は、市教育委員会、市内教員、コミュニティ・スクール委員、計108名が参加した。

総会 令和7年5月10日(土) 14時00分～16時00分

テーマ：「持続可能なコミュニティ・スクールの在り方
～中学校区主体とした学校間連携について～」

3 幼保小連携・小中一貫教育の推進

(1) 幼保小連携

各小学校と近隣の2～5園が連携を図っている。入学から5週間スタートカリキュラムを行い、4月には園の職員に公開している。8月には小学校の教員が5歳児クラスの参観を行い、園の教育・保育活動について共有している。また、1学期中に交流活動計画を幼保小共同で作成し、2学期以降交流活動を行い、3学期には入学する園児の情報共有をしている。

(2) 中学校区交流会及び市教育研究会での小中一貫教育の取組

年2回の交流会で中学校区ごとに情報の共有及び指導の方向性について協議を行う。市教育研究会(年間7回)は、小学校、中学校の教員で各教科等の部会を組織し、義務教育を見通した小中9年間において育む資質・能力を研究の視点とし、授業研究を通して授業力の向上を図る。

III 特色・特徴等

福生市は、多摩西部に位置し、市の面積の三分の一が米軍の横田基地であり、基地を除く面積は約7平方キロメートルである。人口は、約56,000人であるが、外国籍の方が多く居住し、その国籍は60か国を超えている。そのため、7校ある小学校には、外国にルーツのある児童が多く通っていて、外国籍の子どもた



ちと共に学ぶことは、珍しいことではなく、日常において当たり前のこととなっている。また地域は、古くから玉川上水の清流を生かした酒造場もあり、和と洋が融合する地域である。

<福生七夕まつり>

コロナ禍後、一昨年から七夕まつりを再開。昨年は3日間で約38万人が集まり賑わいを見せた。今年度は8月に3日間、8月8日（金）～10日（日）で開催。

